

10年目の3月11日を迎えて ―JESCO 役員、社員とともに―

東日本大震災から丸10年が経過しました。あっという間のようにも思われ、しかしこの間の数え切れない多くのことも記憶に蘇ります。改めてこの災害でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。そして私たち一人一位の果たすべき責任や役割の重さを再認識しながら、震災からの再生・復興にご苦勞を続けられている方々に、JESCO 全社員から「応援」の気持ちを送りたいと思います。

JESCO は、中間貯蔵・環境安全事業株式会社との社名の通り、福島県の除染による除去土壌などを中間貯蔵施設に安全・安心に保管するため、国などの委託を受けて様々な業務を進めています。福島県の各地に積み上げられた除去土壌の搬出の監督支援、多くの10トンダンプによる輸送の安全確保、中間貯蔵施設での土壌貯蔵の安全の確認、施設周辺に造成される緑地帯の管理、大熊町と双葉町の住民の皆様の苦渋の決断で提供いただいた土地の管理、各種事業の進捗や地域の現状についての情報提供、30年以内に県外最終処分という重い約束を実現するための技術の確立の支援、復興に向けての知のネットワークの構築、などなど幅広い業務に及びますが、これらが福島県の復興の下支えとなるものであることを胸に刻んで、日々携わっております。

放射能に汚染された地域の除染と除染土等の仮置場での保管は、福島県・国を上げて取り組んだ環境再生の第一ステップでした。現在力を注いでいる中間貯蔵施設の建設と仮置場からの除去土等の搬出は、復興に向けての第二ステップとも言えると思います。

大熊町役場が町内に復帰され、常磐線が全面開通、双葉駅、大野駅、夜ノ森駅が再開され、復興の槌音が着実に響いてきたことを、私たちは心の手応えとして役割を担ってまいりました。さらに本格化する復興を下支えし応援していく JESCO の使命はますます重いものと考えます。

中間貯蔵事業を担当し、あるいは関連を持つ社員とは、業務上の様々な課題を乗り越え、「工事施工監理 6つの約束」の中でも、特に仕事に誇りと責任を持つ「自分事意識」を基本姿勢とし、福島県の復興にかける方々と一緒に取り組んでいきたいと思ひます。

PCB 処理を担当する社員など直接には担当していない社員とは、地域の環境や安全を重視する JESCO の社風が、中間貯蔵事業にも共通し影響を与えていることを認識し、震災復興に引き続き関心と応援の気持ちを寄せていきたいと思ひます。

震災後の10年を耐えてこられ、次の発展的な10年を目指して、更に前進されようとしている福島県の方々に、仕事の成果を通じ、また日常の行動を通じてエールを送り続けることを、今日改めて私たち一同の決意としたいと思ひます。

令和3年3月11日

中間貯蔵・環境安全事業（株）

代表取締役社長 小林正明